

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 1月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201412		
法人名	はまなす介護センター株式会社		
事業所名	はまなす介護センター光星		
所在地	〒065-0013 札幌市東区北13条東13丁目2-3 (電話) 011-752-2100		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】 (平成21年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 8 月 7 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	22 人 常勤 21 人 非常勤 1 人 常勤換算 21.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 2 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~45,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費17,000円、暖房費(11月~3月)7,000円		
敷 金	有 (35,000~45,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1カ月 29,000 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 8 名	女性 19 名
要介護 1	7 名	要介護 2	5 名
要介護 3	11 名	要介護 4	3 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 81.1 歳	最低 65 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南札幌病院、さくら歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の建物を利用し開設5年を経た事業所は地下鉄駅に近く交通の利便性がある。管理者・職員は「しあわせになる」という理念に取り組み、家族のように支え合い共に暮らすケアサービスを目標としその実現を目指している。町内会活動や地域行事への参加・事業所行事へのお誘いなど地域住民とは積極的に交流する事に努め双方向的連携を構築している。年間行事計画を作成し、季節の行楽行事やお祭り、外食・映画鑑賞・ドライブ・買い物など外出の機会を出来るだけ取り入れて支援している。家族の訪問・電話連絡時の内容を家族会話記録として作成し、会話の中から意見や要望を把握している。利用者の地域生活を支えるケアサービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスへの役割を反映した独自理念はない。評価による改善はまだ不十分である。運営推進会議は定期的開催をしている。研修に関して計画性や報告が充分ではない。同業者との交流は取り組み半ばである。その人らしい暮らしは希望に沿う支援に努めている。外出支援は充分に出来ている。災害対策は推進会議や町内会に働きかけている。
	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は評価の意義や活用法を理解し、個々の職員で自己評価を作成し、カンファレンスで話し合い管理者により纏められている。地域密着型サービスに即した事業所独自の理念作成への着手に今後も引続き期待したい。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2カ月毎に開催され、運営状況や評価結果などを報告している。成年後見制度・権利擁護に関する勉強会や災害時における地域住民への協力依頼などをテーマに話し合い、会議での意見・助言・要望などは事業所運営やサービスの質向上に反映させている。
	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月のお便り・年に数回のホーム便りでの報告、家族の訪問・電話連絡時の家族会話記録の作成、苦情相談窓口の設置や運営推進会議への参加依頼などで、家族に意見・希望・要望・苦情等を伝えてもらえるように取り組み、事業所運営に反映させる体制を作っている。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民とは、町内会活動やお祭りなどの行事に参加し、地域の保育園児をひな祭りに招待するなど、双方向的連携を構築している。利用者が地域の中で暮らしていくのを支える為の取り組みはなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の運営理念として「しあわせになる」が掲げられ、利用者の幸せを追求した利用者本位のケアに努めている。	○	開設以来の母体組織の運営理念に加え、地域密着型サービスの役割を明確に分かりやすく示した内容の事業所独自の理念の作成へ着手されることを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を意識し、朝夕の申し送りや毎月のカンファレンスの際に理念を確認しあっている。「しあわせになる」という理念は範囲が広いいため日々の取組みとして意識するのは難しい。	○	理念を細分化し事業所独自の理念の中で、日々のケアの中で取り入れやすいものとし、日常的に話し合っ共有を図り、具体化した目標を持ってケアサービスの実践に活かす取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内会活動やお祭り等に、積極的に参加している。また、ひな祭りに地域の保育園児を招待する等、地域住民と良好な関係を築いている。		
.					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や活用法を理解し、全職員で自己評価を実施している。自己評価や外部評価によって表出した課題の改善に努めてはいるが不十分である。	○	自己評価の実施は、日々実践しているケアサービスの振り返る機会となり、表出した課題は全職員で検討し改善計画シートの作成や実施経過を記録し具体的な改善に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に運営推進会議を開催し、事業所運営の意義・役割への理解と協力を得る為に働きかけ、運営状況や評価結果などを報告している。成年後見制度・権利擁護に関する勉強会や災害時の地域への協力依頼などを議題とし、会議での意見・助言・要望はカンファレンスなどで報告し、事業所運営やケアサービス向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者に事業所運営についての質問や相談をして助言や指導を受けている。包括支援センター職員の事業所訪問や市・区の管理者会議に毎月出席するなど連携を図りサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の担当職員は毎月のお便りで、金銭出納や領収証などと共に利用者の生活の様子や出来事を家族に報告し、必要に応じて電話連絡もしている。不定期のホーム便りを発行し事業所運営の情報や行事などのお知らせをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問・電話連絡時の内容を「家族会話記録」として作成し、会話の中から意見や希望を知るように努めている。運営推進会議への参加や各ユニットの意見箱・苦情相談窓口の設置など、家族に意見・希望・苦情などを伝えてもらえるように取り組み、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は職員の離職が多く見られたが、異動を防ぐ配慮などで現在は安定している。離職に到った場合は利用者への影響を考慮し十分に時間をかけて馴染みの関係を作るようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の資質向上の為に外部研修の機会を設けている。しかしながら、研修計画の作成や研修内容を全体会議などで報告し、全職員で情報を共有する機会や場を設けるなどの取り組みには至っていない。	○	年間研修計画を立てて外部研修と共に内部研修の機会を設け、職員の質の確保と向上の為に、研修内容をカンファレンスなどで報告し、全職員で共有を図りケアサービスの質向上に役立つ仕組み作りに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席した同業者との交流を通じて、事業所同士の見学会を実施し、職員育成やサービス向上に取り組まれているが、継続的に取り組まれるまでには至っていない。	○	地区内事業所のネットワーク作り、情報交換や相互訪問・研修を実施するなど、職員育成やサービスの質向上を目指した連携に取り組まれることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望にあたり、家族・利用者とは情報提供や希望を聞くなどで十分に話し合い、見学や体験宿泊などで事業所の雰囲気に馴染ってもらい、納得を得てからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を経験豊かな人生の先輩として尊敬し、家族のように支えあって暮らす大切さを理解し、生きがいのある日々となるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や家族の話を参考に、一人ひとりの思いや興味のある事、好き・嫌いなどを把握し、日々の関わりの中での表情や行動からも汲み取れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、担当職員の気付きや介護日誌記録などを検討し、全職員で課題の確認と共有を図り、家族の意見・要望も反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はモニタリングや介護記録の経過を確認し3カ月毎に見直しを行っている。状態の変化に応じてその都度も見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望に応じて、個別の外出支援・通院介助・買い物・外食・お墓参りなど柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月2回の往診、週2回の訪問看護、週1回の訪問歯科など利用者・家族が希望するかかりつけ医受診となっている。入居以前の馴染みの医師への受診希望に応じて通院の支援もしている。看護職員は24時間対応の体制で支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関して、契約時には利用者・家族に説明されているが、運営規定などにも記載はなく、対応指針も作成されていない。	○	将来的には重度化し終末期を迎える利用者を支える為に、事業所運営上の問題点などの解決を図り、具体的な指針作りなどに取組んでいてもらいたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を良く理解しており、自然で優しく誇りを傷つけない対応をしている。個人記録は頭文字を使用してプライバシーへの配慮も見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の基本的スケジュールはあるが、利用者一人ひとりのペースを把握し、その日の体調や希望に沿って柔軟に支援している		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者が能力を発揮できるように、食事の盛り付け・後片付け・食器拭きなどを一緒に行っている。配食サービスの献立ではあるが、季節感や行事に合わせてメニュー変更をするなど、食事が楽しめるように工夫している。体調や誤嚥などにも配慮し、和やかな雰囲気と共に食卓を囲んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や夜間以外の時間に決まりはなく、利用者の習慣や希望に沿って対応し、体調も考慮して支援している。入浴チェック表で定期的な入浴への配慮もしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事や興味のある事を把握し、出番や役割を持って楽しみながら、その人らしく生きがいのある暮らしとなるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の暮らしが単調なものにならないように、各ユニットにレク委員会を作り、年間行事計画を作成している。季節毎の行楽行事やお祭り、外食・映画鑑賞・ドライブ・買い物などで外出の機会を出るだけ取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることで生じる弊害を良く理解し、日中のユニット玄関は開けると音で分かる工夫をし、施錠していないが、夜間は防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の火災通報装置が設置され、年2回の避難訓練は職員・利用者が全員で参加し、夜間想定など条件を替えて実施している。緊急マニュアルを作成し、災害セット（水・食料・おむつ）も準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量を記録し、利用者一人ひとりの特性や体調に配慮して支援している。宅配業者による1日1,600カロリーを基準に栄養バランスを考慮した食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物で社員寮をリフォームした事業所内は、共用空間が家庭的な造りではないが、居間や廊下には利用者手作りの壁飾り・布製のカレンダーや花を飾るなどの工夫を施し、工夫を施すことで家庭的な雰囲気作りを行なっているが、収納場所には苦勞が見られる。	○	収納場所が少ないため、特に脱衣室兼選択室は洗剤や掃除用具などがむき出しの状態となっている。利用者の安全を確保しつつ、収納の仕方に工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具類や仏壇・テレビ・日用品を持ち込み、写真や趣味の品を飾って、その人らしく自由に落ち着いて過ごすことができる。		

※  は、重点項目。